

内閣府「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」に参加して

6月7日の梅雨入りから雨が降りませんでしたが21日は全国的に激しい雨の中、全国各地から多くの参加者で会場は埋まり、行政相談委員男女共同参画担当委員は全国から50名以上、京都行政相談委員協議会からは3名（麻田勝司、富松勝子、井上正暉）の男女共同参画担当委員が参加しました。

日 時 平成29年6月21日（水）13時00分～16時00分

会 場 東京国際フォーラム ホールC

テーマ 「男で〇、女で〇、共同作業で◎」

第1部

1. 開会・基調講演

講師：加藤勝信 内閣府特命担当大臣（男女共同参画）・女性活躍担当大臣

- ・15歳から65歳の労働人口は2008年のピークから減少しているが、就労人口は女性と高齢者の就労で増となっている。今迄の「M字カーブ」は緩やかになってきている。女性の活躍を推進するために公共調達などに加点するようになっている。

（注）M字カーブとは、女性の労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口（就業者＋完全失業者）の割合）は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られており、近年、M字の谷の部分の部分が浅くなってきている（内閣府男女共同参画局）



加藤勝信内閣府特命担当大臣

2. 対談 「女性活躍に向けて」

①対談者 村上由美子氏（OECD 東京センター所長）

大森美香氏（脚本家・演出家）

②大森美香氏、NHK朝の連続ドラマ「あさが来た」の脚本家で、前向きな女性をモデルに書いた。女性の活躍には男女の役割も大きく、「あさが来た」を書いて学んだことが多く、女性も男性も応援したい。その様な社会を作ることが大切。

- ③村上由美子氏、母親ならではの視点を活かして、ビジネスウーマンとして子育てから人生を学んだ。人生において仕事はごく一部である。女×男で物事を進めていく。



対談の様子

3. 取組事例 「様々な分野で活躍する女性の取組事例紹介」

- ①吉岡マコ氏（特定非営利活動法人マドレボニータ代表理事）
- ・産後の「うつ」、「乳児虐待」、「不和」などのケアに取組み、現在では16都府県60カ所で取り組んでいる。
- ②佐藤可奈子氏（雪の日舎代表）
- ・限界集落に22歳で移住したが住民が夢を持っていた。里山と女性・農業と保育・未来を育む人々を育てたい。
- ③尾松万里子氏（滋賀医科大学学長補佐）
- ・女性教育の比率もアップした。敷地内に保育所の設置や搾乳室を設置して女性医師支援に取り組んだ。



取組事例発表

第2部

4. パネルディスカッション 「地域ぐるみで女性活躍を実現する」

パネラー

足立阿季子氏（京都府府民生活部男女共同参画監）

加納裕之氏（第一生命保険株式会社執行役員人事部長）

古志野純子氏（長岡塗装店常務取締役）

阪本清恵氏（日本女子大学教授）

藤井薫氏（リクルートキャリア リクナビNEXT 編集長）

コーディネーター 矢島洋子（三菱UFJリサーチ戦略室室長）

①取組の紹介

- 加納裕之氏、会社内だけでなく地域と連携して男女共同参画に取り組み始めたのは、自社の90%が女性だったから。
- 藤井薫氏、80%が喜びながら働きたいと思っているが実際には30%しか感じていない。
- 阪本清恵氏、再就職は「女性活躍推進法」によって進んできた。
- 古志野純子氏は、子供の看護休暇を30分単位で取得できるようにし、子育てだけでなく介護も想定して応援した。地域での役員等の休暇も対象にし、地域採用にも応募が増えた。
- 足立阿季子氏、将来の管理者候補となる女性社員の育成が急務であり、平成27年に「女性応援京都会議」を発足させた。

②法施行後のこの一年の取り組み

- 藤井薫氏、転職情報サイトの女性の比率が40%と多くなった。
- 坂本清恵氏は、リカレント教育の認知が上がった。
- 古志野純子氏、最近では工業高校からの入社により内部講師でセミナーを開き女性社員のスキルも上がった。
- 加納裕之氏、昨年4月の法施行は大きかった。
- 足立阿季子氏、係長と課長の男女比率が19.8%になった。

③今、残されている課題は

- 足立阿季子氏、活躍したい人としたくない人もありモチベーションのダウンもある。女性の意識の差もあり、意識の問題と働き方は関連している。
- 加納裕之氏、人材育成が課題。
- 古志野純子氏、小学生の母親は夏休みや学童保育の時間も地域によって違うので同じに出来ないか。
- 坂本清恵氏は、インターンシップの企業を増やしたい。リカレント休暇の理解も深めたい。再就職後の保育園入園の課題。
- 藤井薫氏、プロフェッショナルの見える化。能力定義を明確にし成果をしっかりと測る。

④今後の女性の取り組みについてそれぞれ述べられたのは

- 個性を活かし共に成長。
- しなやかに したたかに しぶとく スピード感を持って。
- 不公平感のない社内文化の中で責任を果たす社員の育成。
- ニーズに合わせた新たな学び。
- 3Cの強化（クリア・チョイス・コミュニケーション）



パネルディスカッションの様子

全国会議は予定通り16時に閉会しました。全国で実践されている取組を聞かせて頂いた有意義な会議でした。

以上、会場では録画録音は禁止でしたのでメモでの概略を報告いたしますが、詳細につきましては後日に男女共同参画局のサイトに掲載されると思いますのでご覧下さい。

番外報告「帰路について」

- ①私は京都駅からの乗り継ぎもあり17時前に東京駅のホームに行きましたが、静岡の豪雨の関係で列車の発着の見通しが無いとのアナウンスで定刻より25分遅れで東京駅を発車しました。指定車両まで人が入るぐらい一杯の人でした。19時05分に京都駅手前のトンネル内で急に停車しました。
 - ②京都と新大阪間で架線が切れていて復旧作業しているが回復の見通しは立たない、また、新大阪と京都間に6本の下り列車が止まっていて京都駅ホームにも2本が止まっているため進めず、回復見通しは立っていないと放送されました。最終電車にも間に合わないかもしれないと不安が頭をよぎりました。
 - ③2時間半余り遅れて22時30分に京都駅に着くと新幹線の構内には多くの乗客であふれていましたが、走って発車直前の最終電車にかろうじて飛び乗ることが出来ました。自宅に帰ったのは翌日の午前1時でした。
 - ④麻田勝司委員と富松勝子委員は京都駅には翌日の2時半頃に着き、富松勝子委員は3時頃に帰宅され、麻田勝司委員は京都駅で朝まで待たれ始発電車で帰宅されました。
- テレビでも大きく報道されていたようですが、貴重(?)な経験をした一日でした。

報告者 HP 委員 井上正暉